

【題名】 創られた韓民族スポーツ
The invention of Korean Ethnic Sport

李承洙 (Lee, seungsoo) 研究指導教員：寒川 恒夫教授

【論文の概要】

本研究は、1948年に韓国（正式名称「大韓民国」）という国が建国されて以来、韓国の民族スポーツの創造と変化の過程、およびそれをめぐる語りの分析を目的としている。事例として全国民俗芸術競演大会、密陽百中戯、弓道、機池市里綱引きをとりあげ、これらの民族スポーツの創造の主体を「政府」とじっさいの「担い手」にわけ、それぞれがどのような意図をもって関わっていたかを明らかにした。

これまでの研究は民族スポーツを介して、ナショナル・アイデンティティを創り上げていく上で、国家が一方的に、あるいは相当強い意志をもって働きかけて、そしてその大きな力の源泉として国家があることを明らかにしてきた。しかし、国家というのはあくまでも創造者の一部にすぎず、他方の創造者である担い手との相互関係（interaction）において、民族スポーツは創られていくという視点を欠くか、あるいはその展開が不十分にしかおこなわれなかったといえる。

また、上述の民族スポーツは韓国に広い分布と比較的豊富な資料をもつことがこれまでの諸研究からわかっており、したがって、これらに関して創造の視点から問題を考えてよい段階にあると判断した。

なお、本研究の対象地域は、第1章では朝鮮半島の全体を含んでおり、事例研究の第2章は慶尚南道、第3章と第4章は忠清南道に位置している。

本論は、以下の各章より構成されている。

序章では、本研究の課題について述べた後、研究の視点や意義を明らかにした。次に、中心的概念である「民族スポーツ」、「民族的帰属意識」、「国民文化」などについて説明を加えた。さらに本研究の基づく研究方法や過程について記した。最後に、韓民族スポーツに関する先行研究を整理し、その研究史の流れのなかに本研究を位置づけた。

第1章では、韓民族スポーツの創造の主体を「政府」と位置づけ、政府主催の1958年から始まった全国民俗芸術競演大会を取り上げ、それを記述・分析するとともに、特に民族スポーツについて焦点をあてて述べた。そしてそこから政府がどのような意図をもって民族スポーツと関わっていたか、明らかにした。

第2章からは第1章の内容を踏まえながら、具体的な事例を3つ取り上げ、もう一方の民族スポーツの創造の主体、じっさいの担い手側の立場に立ち、彼ら/彼女らがどのような意図をもって民族スポーツと関わっていたか、明らかにした。

第2章では密陽百中戯について述べた。まず、密陽百中戯がどのような社会的・文化的文脈のなかでおこなわれていたのか、次にそれらが1970年代から80年代までの間、どのように創られ、変化していったのかを時間軸にそって検討した。さらに、社会的脈絡、とりわけ担い手の社会的

ステータスについて、論じた。その際、文化財に指定される以前の担い手に焦点をあてた。

第3章では弓道について述べた。ここでは今日韓国社会において一般的な弓道を取り上げるのではなく、南氏門中の弓道を取り上げた。その理由はかつて朝鮮時代において両班とされた南氏門中が弓道を介して、両班という社会階層をリバイバルさせる意図があるためである。つまり、法律の上では存在しない両班というかつて存在していた階層が弓道という空間の中ではシンボリックに現われる。これが彼らのアイデンティティを創りあげるのではないかと思われる。

第4章では機池市里大綱引きについて述べた。ここでは建国後に創られたものだけを取り上げるわけではない。それまでずっとあったものが形を変えて、あるいは別の意識の下に、韓国の民族スポーツとしてその社会的に認識されるようになっていく様子を描いた。また、韓国人という国民意識をもって綱引きが語られるということに焦点を当てた。その際、語られる中身が本当かどうかということは問題にせず、そのように意識して語り始めたことが大事であると考えた。

もちろん、これらの事例は韓民族スポーツの一端を示すものではあるが、より広がりをもった普遍的な問題に光りを投げかけてくれるものと考えて選択の対象とした。つまり、特殊な事例を深く探求することによって、韓民族スポーツ文化全般を考える新たな見解を生むことができると願っている。

終章においては、以上の考察を総括し、韓民族スポーツとナショナル・アイデンティティについて再考した。

民族スポーツの創造という行為は、韓民族としての彼ら/彼女らの象徴的なアイデンティティを創り出す文化装置とみることができる。韓国人のよりどころをなんとか維持しようとするのが、今日の韓国における民族スポーツの状況であり、その意味で政府による民族スポーツの国民文化化とナショナル・アイデンティティの模索の二重現象が同時に進んでいる中に韓国文化は置かれていると言える結論づけた。